

保 育 か な が わ

発行所
横浜市神奈川区沢渡
4の2
神奈川県保育会
発行人
鈴木 萬 吏
題字
故 内山岩太郎 筆

平成元年を迎えて

保育所への期待

神奈川県福祉部長 手塚 修 平

務時間等の就労形態も多様化しております。これらの影響を受け、県民の保育需要も大きく変化してきております。

また、保育所は保育に欠ける措置児を対象とした施設であります。保育所の持つ機能を地域社会にも活用する動きなども、時の流れとなっております。

皆様の保育所も延長保育や乳児保育、障害児保育等の特別保育事業を従来から実施していただいておりますが、昭和六十二年度からは、育児相談、育児情報提供等を行う地域育児センターの設置を促進し、都市化のなかで育児に悩むお母さんやお父さん方の強い味方になっております。これも県民の保育需要に応えたものであると言えますよう。

神奈川の保育は、皆様方の御努力により、全国的にもその先進性が注目されております。今後とも施設機能を生かした家庭への支援などの充実に努めていただきたいと思っております。

今年七月には、県保育会・県社会福祉協議会等の主催で、第30回関東ブロック保育研究大会が開催され、関東地区の約二千名の施設長・保母等の保育関係者がこの神奈川に集まり、日頃の保育に関する研究・実践成果を発表するとともに、共通に抱える今日的保育問題について共に考え、話し合い、解決への糸口を探る計画があると聞いております。こうした大会が平成元年に当県で開催され、新しい保育のあり方を探ることは、意義深いものと思っております。

いつの時代にあっても、子どもは宝です。神奈川の次代を担う子ども達がすくすくと育つように、保育会の皆様の手を取り合い、児童福祉の推進に、今後とも更に一層の努力を重ねられ、「平成元年」を契機に、新たな飛躍を遂げますことを期待してやみません。



「昭和」から「平成」と元号が変わり、新しい時代を迎えました。保育所は地域の身近な児童福祉施設として発展し、量的にも一応の水準に達するなどの充実がされてまいりましたが、県民の保育所に対する期待は、今後ますます強まるものと思われまます。

近年の経済・社会情勢の変化は著しく、保育事業を取り巻く環境も、児童数の減少、婦人の社会参加の増加、核家族化の進行、地域社会における連帯意識の希薄化等の変化を示し、特に、婦人の社会参加意欲は年々高まっており、職業を持つ婦人は増加し、職種・勤

平成元年度国家予算所感

会長 鈴木萬 吏

保育園(所)は保護者に選択されるだけでなく行政側からも選択される時代になったと痛感されるのが来年度の予算である。多様な保育需要に対応している保育園には措置費或は補助金の形で予算化していかうという傾向が更に強化されているのである。乳児保育実施保育所を指定して乳児保育担当保母を一人ずつ配置する。指定されなければつかないと心配する地方の園長先生、いや「うちの町はお金がかかるから未満児は措置してくれやしない。」とボヤいている園長先生、「国庫補助率を前の通り国の八割負担に戻す運動を強力に展開しなければ予算対策運動にならない。」といきまき先生。理解は出来るが全く見込みがないと予測している私は、「先ずお小遣いの金額を増やすことが第一です。それをお父さんが半分お母さ

んが半分だって、お父さん八割お母さん二割でも、どちらにしてももう金額を増やすことが先です。」などと説明説得に努めざるを得なかった。消費税がきまつたせいで久し振りに財布の紐がゆるんだので結果はまあまあであるが、費用徴収の加算分の多いのが気になってならない。老人と並ぶ二本柱の児童の健全育成の為には今後は保護者の保育料負担の軽減を実現すべく保護者の方々と連携して運動を強化すべきと考える。

さて土曜隔週閉庁がいずれは土曜各週閉庁へと拡大されるのは必然、日本人は働き過ぎというが西洋人は労働を嫌なことに考えてギリシャの昔から奴隷にやらせてきた。日本人とは考え方が違うのにと言っても仕方がないが世の風潮は休め休めの方向である。保育園の職員は数もお金も増えないでど

う対処したらよいか。官公庁は普段から余計な人間が大勢いるせいだとひかんでみてもしょうがない。当分は火曜日から金曜日迄の間に連休にならないように交互に休むしかない。益々公私の格差がつくよう職員の人達には申し訳ないが、ないよりましとしばらく我慢してもらうことにする。難題苦問に苦悶することしきりの昨今である。

第三十回関東ブロック保育研究大会の大事業は会員の各先生方の力強いご協力で頑張って開催！
昭和三十三年度
KANTO BLOCK保育事業連絡協議会

関東ブロック保育事業連絡協議会開催される

本年度は、第一回目が山梨県中府市、第二回目が埼玉県秩父市でそれぞれ開催された。この会は、保育・保母・主管課・社協の四職域部会が一堂に会して保育に関する課題を協議するものである。

わたしたちと関係の深い保育部会では、保育制度の充実の為の地

方活動報告や現代的保育課題に対する保育所の対応についての情報交換が活発になされた。また、平成元年度の関東ブロック保育研究大会は第三十回の記念大会となるため保育組織に特に功労のあった人を大会に招待し感謝の意を表すことになった。

第三十回関東ブロック保育研究大会
神奈川県箱根町で開催
平成元年七月十八、二十日

場所 箱根町「小涌園」
主題 いま、子ども・家庭・地域

社会とともに
—子どもの育つ環境と保育所の役割—

これは、私たちみんなで開催する大会です。努力と成果を分かち合いましょう。

すでに、大変なご努力をいただき感謝申し上げます。大会に向けてなお一層のご協力をお願いいたします。

全国保育研究大会開かる

分科会を中心に子どもの城で 実践講座も同時進行で……

十一月二十九日から十二月一日までの三日間、東京青山「子ども城」をメイン会場として、第三十二回全国保育研究大会が開催された。

メインテーマは「21世紀の育児を考える会」で、明日をひらく保育を考える―子ども・家庭・地域の現状と保育所の機能―をサブテーマとして全国から集まった保育関係者千二百余名によって終始熱のこもった討議が行われた。

初日、表彰式等の式典をすませメインテーマによるシンポジウムが行われ近未来の保育と保育所のあり方を参加者全員で熱心に討議した。また同時進行の形で今回の大会がこどもの城という多目的な施設の特徴を生かしたものであるため、日常現場で直接保育に携わっている保母を中心に特別プログラム七コースが用意されていて、保育の現場を担当する保母達にと

っては研究成果の第一線に触れ、新鮮な技術と情報を得られたことが大きな魅力であったようである。第二日は本会場の他に全社協ビル等も利用して全部で十四の分科会が開かれた。どの会場も各地区における日頃の実践に基づく生の声が発表され、また、参加者からもそれぞれの体験から出た熱意あふれる意見・質問が出され、実りある討議がなされ、あつと言う間に閉会の時刻が来てしまった。

第三日は、記念講演が行なわれ参加者に多大の感銘を与えた。続いて大会宣言が採択された後、会場内に勇壮なねぶたばやしが流れスライドが映される中、ねとに扮した青森県の保母達の手から参会者に同県から贈られたリングが手渡され「来年は青森が開催地です是非青森に来て下さい。青森でお会いしましょう。」となごりを惜しみつつ散会した。

第十一回「神奈川県保母の日前夜のつどい」が、去る昭和六十三年十二月二日、午後五時三十分から横浜東急ホテルに於いて開催されました。

当日は草山総務部副部長の司会で進められ、富田総務部長の開会のことばで始まり、鈴木保育会長の挨拶、第二十四回の保母賞受賞者、坂井二子氏、堀美代子氏、山本喜美代氏の紹介、厚生大臣被表彰者、半沢日出夫氏（当日欠席）、長谷川愛子氏、桜井シズ氏、大井諳玄氏、山崎田鶴子氏、広田信子氏、白田キミ氏、小西智子氏の紹介と続き、来賓代表祝辞、県児童課田栗課長、県社協望月会長、聖ヶ丘保育専門学校平中侃氏、の挨拶がありました。又、感謝と労を犒い心をこめて花束贈呈がなされました。

アトラクションとして神奈川県保母会より、県保母会長の司会で

保母の日前夜のつどい

大和市在住の西山和枝さんの独唱八木薫さんのピアノ伴奏で、オペラ「セルセ・クセルクセス」よりヘンデル「樹木の陰で」、オペレッタ「メリーウィドウ」よりレハール「グイリアの歌」、石川啄木作詞「初恋」、竹久夢二作詞「宵待草」等、七曲の美しい歌声がホールに響き前夜の集いに一輪の花を添えました。

その後、参加者は県社協露木常務理事の乾杯で懇談に移り立食パーティを楽しみました。

時間のたつのも忘れてる位でしたが相馬総務部副部長の閉会のことばで終了となりました。

第11回保母の日前夜のつどい

主催 神奈川県保育会



「ブロック研修活発に行なわれる」

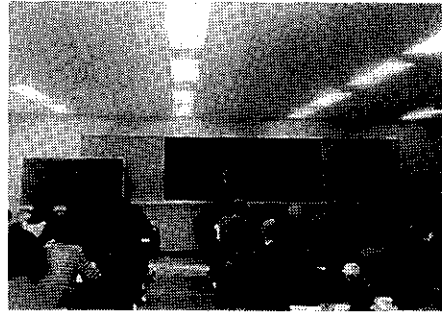
西湘地区

十一月一日西湘ブロック園長研修会が小田原市役所の会議室で行われ大勢の園長先生方が熱心に受講されました。

「いま保育所における重要課題は」の演題で県保育

会長、鈴木萬吏先生に講演をいただきました。社会福祉は、そこに手をさしのべなければならぬ人がいることから始まり、措置施設として社会的にも整備されてきた。

社会情勢の変動は、公的措置施設が見直され保育所に必要なベースとしての考えと運営が求められている。(意識を変えていかなければならない。)地域の対応はなんでも対応していくのは無理がある。どこか一ヶ所で行



れた。

十一月一日西湘ブロック園長研修会が小田原市役所の会議室で行われ大勢の園長先生方が熱心に受講されました。

日曜日、夜間保育、一時預かり保育等もこれから求められるであろうことも対応の関連として話される。最低基準の考

え方や措置費についてもユーモアに溢れた講話でした。

引き続き懇親会が小田原ウイングに場所を移し、小田原市長さんを囲んでなごやかに会食が行われ、自己紹介等、西湘ブロックの親睦がなさ



県央地区

第十九回県央地区保育事業大会が去る昭和六十三年十一月二十六日(土)に、愛川町文化会館ホールを会場に開催されましたがその中で行われた記念講演(講師 神奈川県立婦人総合センター館長 金森トシエ先生の演題「共に育て・働き・生きる」)の状況をほんの少し紹介します。

「共に育て・働き・生きる」子育てとは……自らも一緒に成長していくことにある。聴衆の年齢もまちまちで、受け取り方はそれぞれ違っても、金森トシエ先生の体験を通しての子育てしながら働くことのむずかしさ、楽しさなどの話を聞き、「あ、先生もそんなことがあったのか。」と胸うたれるものがあった。

社会の移り変わりにつれて、家庭のあり方は、画一的でなく多様化されてきたことを痛感した。

「子は親の後姿を見て育つ。」その限りでは、家庭や家族のあり方は一朝一夕には変らないと思

が、仕事志向派と家庭志向派が逆転して、仕事よりも家庭を重視する傾向が強まっている。今、仕事一筋だった夫が家庭派に変身しつつある半面、外で働く妻がふえ役割分担も逆転「主夫」が多くなる時代がそう遠くない感じがする。

家事、育児の責任問題よりも、親と子のあり方について、もう一度考える時がきているように思う。





二十一世紀を担う若手保育所長を育てようと「西暦二〇〇〇年代の保育所を考える会」は、本年度の県保育事業大会で承認され、その後の準備委員会・実行委員の委嘱を経て、十二月八日第一回実行委員会が県福祉会館で開催された。本会は、県保育会の研修部に所属するものだが、実行委員は、各地区の県保育会委員の方々に推薦をお願いし、県所管内の全地域から公私立の保育園のバランスも考慮して選出されている。現在二十六名のメンバーで構成されているが、意欲ある新たなメンバーをど

らんと増やし一層の充実をはかることが計画されている。

この会の運営及び事業計画については、第一回目の実行委員会では、第一回目の実行委員会では、討議され、研究・研修会と講演会の企画との二本を主な事業とし、その運営は実行委員全員であたることに決定された。会の持ち方は、かのおおまかな方針が定まると、

第二回目の委員会（二月六日開催）では、前回、あるグループ内から提起された問題が研究題として選ばれた。それは今問題化されつつあるLD児（学習機能障害）に関するものである。自園に該当児がいて勉強を始めたというあるメンバーを講師として研究を深めた。さらに、この問題や「障害児

回数を重ねるごとに、この会は一人一人が自分達で作り上げながら高い内容にして行くという方針を定着させつつある。

この三月には、第三回目の委員会が予定されているが、その開催は原則として月一回以上というところであり、必要に応じて開催回数は増えていくものと思われる。

西暦二〇〇〇年代の 保育所を考える

さしあたって残

された課題としては、本会事業の本柱の一つである保育園関係者を対象とした講演会を開催することであ

早速、来年度以降の園児数の動向や、今抱えている保育所の課題に対して各園がどのように対応しているか等について、資料を検討しながらの積極的なグループ討議が進められた。その経過及び結果の記録は整理され、後日、各委員に送付され、貴重な資料となっている。

保育はこのままでよいのか」という提案に議論はおよび、熱心な討議がくりひろげられた。障害児の問題は、それぞれが深くかわっており、悩みや関心も真剣なものがあり、本日の問題をもう少し詰めたいたの意思が多く、次回は委員の関係者である外部講師を依頼することにいった。

今後、実行委員が自ら問題意識を持ちながら皆でその解決策を模索していくという内容的に自主性の強い組織として発展していくことになろう。そうした中で練り上げられていくであろう講演会は、興味深い充実したものになるとの期待を私達に抱かせてくれる。

主任保育研修

室内にすることがもったいない程の青空の美しい十一月八日・九日ここに湯河原ホテル観山で主任保育研修会が開かれました。

保育会に部制がひかれて研修部として初仕事のこの研修に主任保育の参加者は五十余人でした。

研 修 報 告

初日会長より最近の保育情勢についてお話いただき引き続き京浜女子大学の箕原先生の講演に移りました。「保育現場に於けるキーパースンの資質と役割」と題してよいお話がありました。「毎日の保育には主任保育としてどの年齢の部屋にも入っていけるように」と改めて自覚をうながすようなお話でした。夕食もなごやかに懇親を深めながら仲間との会話に花が咲き時の経つのも忘れる程はずみました。翌日は四グループに別れ一グループ

(施設における職務分担)二グループ(主任保育の役割ともめられるもの)三グループ(主任保育のかかえている問題点)四グループ(保護者との対応)でそれぞれグループ討議が活発に行われその結果をグループ毎に代表が報告されました。さすがこの研修担当の方々の企画はよく出来ていて、運び方内容も充実していました。終わって参加者の方々が生き生きと明日への意欲が伝わって来るような感じさえ致しました。



調理員研修

日時 一月十九日(木)
場所 神奈川県社会福祉会館
参加予定人員をはるかに越え大會議室において開催された。

主催者挨拶の後、横浜東急ホテル・グリルレスカール 奥沢好和氏の「フランス料理と私」と題して私達の知らないホテルの調理場

・仕事場から見た失敗談、ピラミット型の階級制度のお話しを聞く。氏が入社した頃(昭和四十一年)先輩から殴る・けるは日常茶飯事であった。入社してすぐの見習いは鍋洗い・床掃除・冷蔵庫掃除が

仕事で、掃除が早くきれいに出来る者は仕事も手早いと言われている。フランス語で材料名を言われる為にフランス語の勉強をする。一度に十種類以上の材料名を言われるのでメモを書く事を覚える。

たとえばフランス語で「ナベ」日本語に訳すと「かぶ」鍋を持って行くと怒鳴られる。鶏百羽分をオ

ープンに入れてトイレに行き帰って見ると黒こげ、目の前が真っ暗になった事もあった。この職場は総料理長を頂点にシェフ、チーフ、アシスタントチーフ、一般職、見習いとで調理場が成りだっている。

メニューはシェフのメッセージでもあり料理の一部でもあると話していた。

午後「私の調理の工夫」をテーマに五つのグループに分かれ給食問題委員会



の先生方を中心に子供達の活動源となる給食について活発な討議が行われた。研修も終え東急ホテルでおいしい料理を囲み楽しいひとときを過しました。



園(所)長研修

日時 一月二十六日(木)

場所 江東園(東京・江戸川)
平成元年、暖冬の中、保育会研修部主催による、園(所)長研修が実施された。

今回は、保育所と老人福祉施設が併設され、相互の交流を積極的に進めている複合施設を見聞し、今後の保育所運営に役立て、あわせて、これから益々高齢化社会へと移行する現代において、多くの要望に応えた、有意義な施設見学であった。

大型バスが補助席まで満席の中、

予定時間を少し遅れて、天理ビル前を出発した。車中は、富田副会

長の挨拶、小菅研修部員の日程説明の後、和やかな会話が続く内に、予定通り江東園に到着した。施設内の説明の後、二班に分かれて見学した。江東園は、一階に保育園と老人ホームの食堂、二階が養護老人ホームとデイ・ケアセンター、三階に特別養護老人ホーム、全職員数六十五名の規模の大きな、総合福祉施設である。

一日は先ず、朝の体操からスタートし、子供達がリーダーとなつて、車椅子のお年寄りから、元氣なお年寄りまでが参加して行われる。そして子供達は、設定保育以外の時間を活用し、居室を自由に遊び回り、お互いに顔が見えないと心配する程になるそうである。子供にとっては、話して聞かせることよりも、毎日の体験を通して、自然に触れ合いを重ねることが、核家族化が進む現代社会にとって、必要なことと思われる。

総務部

部長 富田英雄

総務部は、各部の協力・援助のおかげで、統括的ないし連絡調整的役割を果しつつあります。

部会は随時開催しており、毎回の委員会の設定や保育事業大会・保母の日前夜のつどいの企画運営のほか、慶弔規定・表彰規定等各種規定の見直し作業や新期事業である「有用保母登録制度」創設のための調査事項の検討も重ねております。

また、平成元年七月には、本県が当番となつて第三十回関東ブロック保育研究大会を開催します。そこでは総務部門を担当し逐次準備を進めております。

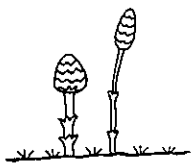
県保育会の充実に向けて、各部及び会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

研修部

部長 長谷川保

昭和六十三年度の事業計画通り主任保母研修会が湯河原で十一月八日・九日の両日にわたり約六十名の参加者が県下より参集した。箕原先生の講演をまじえてグループ毎の日頃の実践からくる諸問題を中心に主任保母の立場から活発な話し合いが行われ、新たな充電ができた研修会であった。又、十二月八日には第一回西暦二千年代の保育所を考える会が産声をあげた。グループ討議を中心に多くの問題について遠慮なく発言していく会をめざし将来へつなげていきたいと考えている。

新しい年を迎え調理員研修会が一月十九日県社協で「私の調理の工夫」をメインテーマに百二十名の参加者で盛大に行われた。ホテルの料理長より「フランス料理と私」という貴重な話を聞く事ができ、有意義な一日であった。一月二十六日には本年度最後の研修会である施設長研修が行われた。



調査研究部

部長 渡辺 健司

調査研究部の現在手がけている作業は、先般各市町村主管課苑及び各園長宛に依頼した調査の集計と報告であります。多様化する中で保育の適正配置はされているのか、乳児保育はいつから始めたら解消されるのか、又、対応できる保育が充分あるのか、延長保育から夜間保育・休日保育へと要望は大きい、それらの対応はできるのか、病児保育での専門的知識はどうなのか、一方ベビーホテルの進出、ベビースITTERの認知などを考えるとき、認可保育所の責任は大きい。

予算対策部

部長 石野きよ子

〔一〕 保育予算確保代表者会議
開催日六十二年十二月十三日 会場 東京全社協ビル 主催 全国社会福祉協議会 参加者約五百五十名 要望書確認 行動提起 陳情行動 報告会 今後の運動の提起等

〔二〕 社会福祉予算確保全国代表会
開催日 本年一月二十日 会場 東京砂防ホール 主催 全社協
予算をめぐる状況報告、運動方針決議。陳情行動等。平成元年度福祉に関する要望は次の事項です。
老人障害児者の在宅福祉の充実・家庭支援保育母子福祉の充実・地域福祉ボランティア活動の充実・社会福祉施設整備費の改善・各種年金・生活保護基準の改善・消費税導入に伴う低所得者対策・社会福祉に関する税制改正実施。
以上二回の会議に出席しました。これからも益々厳しい現状をよりよいものにしていきたいと思えます。

おめでとうございます

★昭和六十三年中に本会会員で厚生大臣表彰の栄誉を受けられた方々

社会福祉功労厚生大臣表彰

沼間愛児園長 半沢日出夫氏

保育事業功労厚生大臣表彰

桃重保育園長 長谷川愛子さん

日の出保育園長 桜井 シズさん

荻窪保育園理事 大井 諦玄氏

みどり保育園長 山崎田鶴子さん

小光子愛育園 広田 信子さん

さむかわ保育園長 白田キミさん

白百合保育園 小西 智子さん

(注)新聞発表順(みどり保育園は厚木市所在、同名の園が二園あるため)

★ご冥福をお祈りいたします

榎岡 智氏(前清心保育園理事)

(長)

昭和六十三年十月二十二日逝去

柳瀬留治氏(前座間保育園長)

昭和六十三年十二月九日逝去

あとがき

「記事は足で書くもの」を合言葉に、保育かながわの腕章を左腕につけた記者が、行事や研修を取材しました。お陰でどの記事も生き生きしていると思えますが手前味噌でしょうか。今その記者達は、「さすがに神奈川だ」といわれるような関プロの速報を目指して武者振いの毎日です。(富田)

広報部員の方々と何度かお逢いしている間に、その方の人間味が伝わってくる。保育に携わる方だけに暖さと熱意にほだされ、いい方々にめぐり合えたと喜んでいられる。この方々の息吹きが届く「保育かながわ」を作りたい。(登原)
●激動の昭和が終わり地平天成の願いを込めて新しい時代が始まった。昭和という時代を一杯生きて来た者にとって何かこれで一区切りがついた様な、まだまだこれからガンバラナクチャと言う様な複雑な心境である。(奥村)